

2022

MUSEUM NEWS Vol.171

だ	美
よ	術
り	館

contents

〈展覧会紹介〉「“創造する広告⇄アート⇄新しい光” 戸田正寿の世界」	[2～3]
〈イベント報告〉「東西日本画、美の競演 ー東京と京都、どちらが大好き？」	[4]
「版画名品展 ～ピカソ・北斎、巨匠たちの表現～」	
「春色爛漫 花の宴 培広庵コレクション ザ 美人画」	[5]
「HUMAN BEING 創られし人間たち」	[6]
「新収蔵品紹介」	[6]
令和3年度 新収蔵品紹介	[6～7]
次回展覧会のお知らせ	[8]
美術館喫茶室二ホ特別メニューのお知らせ	
休館日のお知らせ	

表紙：(Brilliant) (部分) ©SEIJU TODA 「“創造する広告⇄アート⇄新しい光” 戸田正寿の世界」展より



“創造する広告⇄アート⇄新しい光”

戸田正寿の世界



宝石を超えた光るアート〈Brilliant〉 ©SEJU TODA

7/15[金]～8/31[水]
2022年 (会期中無休)
福井県立美術館

【開館時間】 午前9時～午後5時※7月15日(金)は午前10時～
(入館は午後4時30分まで)
【観覧料】 一般1,200円(前売り・団体1,000円)
ペアチケット1,800円(前売りのみ)
高校生800円(団体600円)
小・中学生500円(団体400円)

※団体は20名以上。※学生の方は学生証の提示が必要です。
※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。※未就学児は無料。
※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、
入場制限を行う場合や中止になる場合があります。
●前売券販売 6月15日(水)～7月14日(木)
<コンビニ端末>チケットぴあ(Pコード: 686-099)、ローソン(Lコード: 52425)

【主催】 戸田正寿の世界展実行委員会
(福井県立美術館、福井テレビ)

【特別協賛】 坂井市

【後援】 福井新聞社

【お問合せ】 福井県立美術館
〒910-0017 福井市文京3-16-1
TEL: 0776-25-0452



ペンギンたちの恋愛模様をドラマティックな
アニメーションで描く
(サントリー・缶ビール(ペンギンキャラクター編)) ©TODA & HIKONE



壮大なスケールで
吟遊詩人ランボーを紹介する
(サントリー・ローヤル(ランボオ編))
©SEJU TODA



「Brilliant Heart Museum」から見た
雄島の四季の移り変わりをダイジェスト映像で紹介
©SEJU TODA

“創造する広告⇄アート⇄新しい光”

戸田正寿の世界

日本を代表するアートディレクター、戸田正寿(1948-、福井県出身)
戸田は〈サントリー・缶ビール(ペンギンキャラクター編)〉〈サントリー・ローヤル(ランボオ編)〉〈伊勢丹〉〈アエラ〉等アーティスト
ティックでクリエイティブな数々の広告によって、それまでの常識
を覆し、新しい広告像を提示。国際的に高い評価を得るとともに、
多くの人々を魅了してきました。

近年は、光るキャンパス「Lightface」(2016年)の意匠監修や、
刻々と変化する雄島(福井県坂井市)の景観を鑑賞する
「Brilliant Heart Museum」(2018年)を完成させるなど、
自身の美意識をかたちにすべく斬新な試みを行っています。

本展では、一時代を築いた戸田の広告作品群を一堂に披露する
とともに、「Lightface」をキャンパスに見立てた光る作品や
「Brilliant Heart Museum」から見える雄島の四季の移り変わ
りをダイジェスト映像で紹介し、戸田正寿の世界観に迫ります。

関連イベント

- 「見どころ解説会」
会期中土曜日 午前10時30分～約30分
講師／西村直樹(福井県立美術館総括学芸員)
〈当館講堂〉参加無料 事前申込不要(当日直接会場へ/先着40名)
※上記開催日以外にも追加開催する場合があります。
※詳細はHPをご覧ください。
- 笙演奏「雄島の四季と戸田正寿に捧ぐ」
7月16日(土) 午後2時～午後2時30分
笙演奏家／宮田まゆみ
(国立音楽大学招聘教授。1983年より国内外でリサイタル
を行い、東洋の伝統楽器「笙」を国際的に広めた第一人者)
〈当館展示室〉参加無料(展覧会観覧券の提示が必要です)
事前申込不要(当日直接会場へ/先着50名)
- 対談「戸田正寿の軌跡」
7月24日(日) 午後2時～午後3時30分
登壇者／戸田正寿 × 西村直樹(福井県立美術館総括学芸員)
〈当館講堂〉参加無料(展覧会観覧券の提示が必要です)
事前申込不要(当日直接会場へ/先着50名)
- 対談「戸田正寿のクリエイティブ」
8月7日(日) 午後2時～午後3時30分
登壇者／戸田正寿 × 西村直樹(福井県立美術館総括学芸員)
〈当館講堂〉参加無料(展覧会観覧券の提示が必要です)
事前申込不要(当日直接会場へ/先着50名)
- 学芸員トークサロン「戸田正寿のアートディレクション」
8月21日(日) 午後6時～午後7時
講師／西村直樹(福井県立美術館総括学芸員)
〈美術館喫茶室ニホ〉参加無料(お飲み物をご注文ください)
申込/HPまで(先着10名)
※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、入場制限を行う場合や中止になる場合があります。
※その他の関連イベント等については、HPをご覧ください。



イベント情報はこちら



泣いている子ども達に未来を
(Future Under Crying Kids)



美しいイラストが話題となり大ブームに
(PARCO)



和の世界観を白木と日本の生き物で表現
(HEIAN)



トヨタ・ソアラを柔らかいアートで世界に訴求
(TOYOTA SOARER)



いつの時代も若者を虜にするパーバー
(Burberrys BLUE LABEL)



武田信玄の“眼”
(NHK大河ドラマ 武田信玄)



創刊から26年間にわたり表紙をアートディレクション
(アエラ(黒澤明))



常識破りのファッション広告が世界でセンセーション
(伊勢丹(ナオミ・キャンベル))

©SEJU TODA(8点)

《イベント報告》

東西日本画、 美の競演

2022
1.22(土) - 2.20(日)

協力: 敦賀市立博物館

東京画壇の作品が充実している当館と、京都画壇に手厚い敦賀市立博物館、その両館の名品で江戸末から昭和にかけての東西の作家たちによる

最強の東西、美の競演をご紹介します。

敦賀市立博物館コレクションは、近年、府中市美術館での「ふつうの系譜」展(2020、2022年)でも注目を集めており、参考作品としてトップを飾った、中国・清時代の沈南蘋のほか、狩野勝川の名品、鈴木松年の豪快な作品などが見慣れた当館の作品とともに並ぶことで、不思議な化学反応が生まれていました。



左: 沈南蘋《石榴に小禽図》(部分)
中国・清時代(江戸中期)

右: 狩野勝川《岩に牡丹図》(部分) 江戸後期

※いずれも敦賀市立博物館蔵。
中国の精密描写からその影響を受けた作品
まで、時代を代表する名品ぞろいでした。



同時
開催

松尾芭蕉と奥のほそみち

本展では、松尾芭蕉の紀行文『おくのほそ道』出版の元になった『おくのほそ道』素龍清書本(重要文化財)を特別出品しました。素龍清書本は芭蕉が能書家の柏木素龍に依頼して書かせ、自筆の題簽を付して旅にも持ち歩いたものです。芭蕉の死後は、近親者の手を経て現在まで敦賀の西村家で大切に守り伝えられていました。ご来場の皆様は、「まさか福井にこんなお宝があったとは!」と驚かされていました。

その他にも、敦賀を読んだ「月きよし」の短冊や、芭蕉筆跡の基準作として極めて重要な作品「人に家を」発句懐紙など芭蕉の墨蹟資料も合わせてご紹介しました。



『おくのほそ道』素龍清書本
(重要文化財、個人蔵)

《関連イベント》

●学芸員による見どころ解説

令和4年2月5日(土)、2月19日(土)

各日午後2時~3時

【場所】第4展示室

【参加人数】計58名

●学芸員トークサロン

令和4年1月23日(日) 午後5時~6時

【場所】美術館喫茶室ニホ

【参加人数】8名

《イベント報告》

版画 名品展

~レンブラント・ピカソ・北斎・巨匠たちの表現~

2022.2.26(土) - 3.21(月・祝)



版画制作画材と
版画制作道具

※同時開催「木村利三郎展—都市版画の世界—」は
次号で報告いたします。

本展では、版画の技法を「凸版」、「凹版」、「平版」、「孔版」と大きく4つの版形式に分類し、福井県立美術館のコレクションである版画作品をご紹介します。それぞれの版形式の説明と合わせてレンブラント、ピカソや北斎などの版画作品を展示しましたが、版の素材の性質や、作者が追い求める効果によって実にさまざまな表現がご覧いただけたのではないのでしょうか。また、イベントでは金沢美術工芸大学から神谷佳男先生を講師にお招きして、本格的なプレス機を使ったリトグラフ制作のワークショップを開催しました。ハンドルをまわし、プレス機で版と紙を圧着させる作業は力が必要で大変ですが、図柄がきれいに刷り上がると緊張がゆるんで思わず歓声が上がりました。

《関連イベント》

●学芸員による見どころ解説

①令和4年3月5日(土) 午後2時~(版画名品展と木村利三郎展の共同解説会)

②令和4年3月13日(日) 午後2時~

【場所】美術館展示場

【参加人数】①18名 ②19名

●学芸員トークサロン

令和4年3月20日(日) 午後6時~7時

【場所】美術館喫茶室ニホ

【参加人数】12名

●樹脂版リトグラフを作る

令和4年3月20日(日) 午後1時~

【講師】神谷佳男氏(金沢美術工芸大学教授)

【場所】第4研修室

【参加人数】13名



ワークショップの様子

《イベント報告》

ザ 美人画

2022
4 / 28(木) - 6 / 12(日)

春色
爛漫
花の宴

福井で初公開となった培広庵コレクション。当館の所蔵品を含む65点にて、岩佐又兵衛の風俗人物にはじまり浮世絵を経て、近代における流行、そして個性開花の時代まで、質の高い作品で日本美術特有の「美人画」の変遷を辿りました。特に女流画家を特集した章では、高い技術と、衣装・小物など細部へのこだわりによって生み出された秀作の数々によって、女流画家の進出と活躍を見直す機会となりました。

お気に入りの作品を選んで投票する「美人画コンテスト」では、3位: 小早川清「名妓市丸」、2位: 島成園「化粧」、1位: 上村松園「桜可里能園」と、会場で実際の絵画の魅力を体感した参加者ならではの結果となり、それぞれ新たなイチ押し作家の発見に繋がりました。また、今回は着物の女性像にちなみ、和の伝統文化に触れるイベントを多数開催。多くのみなさまに和装でお越しいただき、和レトロな世界をご堪能いただきました。



《関連イベント》

●コレクター培広庵氏による スペシャルギャラリートーク

令和4年4月28日(木)

【講師】培広庵氏(コレクター)

【参加人数】30人

●ブロガーナイト

令和4年4月28日(木) 【参加人数】25人

●出張写真館 着物でフォト

令和4年4月30日(土) 【撮影】Dot.Graph

【参加人数】20人

●美術館で着物着付け教室

令和4年4月30日(土) 【主催】きもの もたはん

【参加人数】6人

●つまみ細工ワークショップ

令和4年5月5日(木・祝)

【講師】花de羽二重 HABUTAE 吉村良子氏、
吉川倫世氏(日本つまみ細工コーディネーター協会
認定講師)

【参加人数】10人

●美術館喫茶室ニホ 学芸員トークサロン

令和4年5月15日(日) 【参加人数】13名

●親子鑑賞デー~親子で美術館へ行こう!~

令和4年5月21日(土) 【参加人数】18名

●美人画落語会

令和4年5月21日(土)

【出演者】田舎家山山/葵亭真月/瓢家萬月

【参加人数】40人

●学芸員による見どころ解説

令和4年5月1日(日)、3日(火・祝)、
7日(土)、28日(土)、6月11日(土)

【参加人数】計108人



●記念講演会

令和4年6月4日(土)

【講師】梶岡秀一氏(京都国立近代美術館 主任研究員)

【参加人数】45人

●マリンバによるナイトミュージアムコンサート

令和4年6月4日(土)

【演奏】Pulse Du 平岡愛子氏・山崎智里氏

【参加人数】38人



●大人のメイクアップレッスン

令和4年6月5日(日)

【講師】ヘア&メイクアップアーティスト YUKARI 氏

【主催】美めぐりふくい 【参加人数】13名

●和装で美術館

毎週土・日

●昭和レトロ映画上映会

会期中通期

出張写真館 着物でフォト

美人画落語会(葵亭真月氏)

記念講演会(梶岡秀一氏)

マリンバによるナイトミュージアムコンサート(Pulse Du)



《イベント報告》

HUMAN BEINGS

創られし人間たち

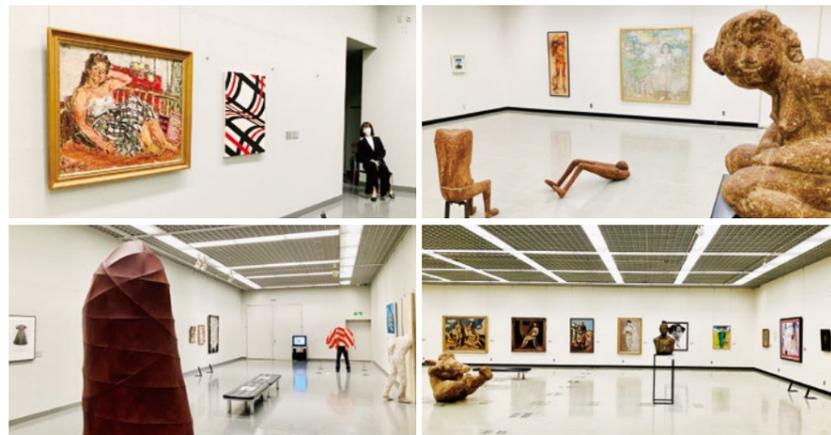
同時開催

新収蔵品紹介

今村桂山 瑛九 川崎和男 木村利三郎

2022.4.28(木) - 6.12(日)

絵画と彫刻「多様な人々」、現代アート「変貌する人間像」の2章構成で、魅力あふれる人物画や肖像画、人体彫刻などを展示。美術における多様な“人間”の表現を紹介しました。また、同時開催にて令和3年度の新収蔵品を展示しました。



《関連イベント》

●ギャラリートーク

令和4年5月14日(土)
[参加人数] 15名

【寄贈】

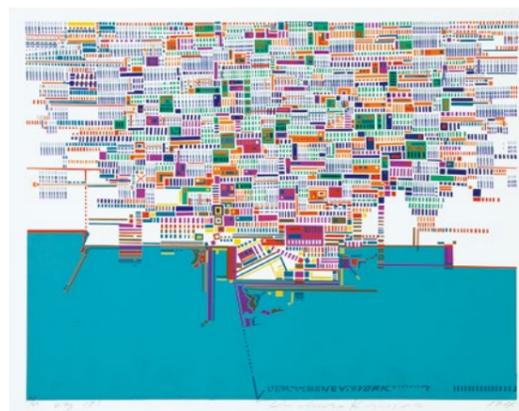
きむらりさぶろう
木村利三郎 木村秀夫氏寄贈

- 「無題(仮題)」 1960年代 5.5×4.2cm 紙、エッチング
- 「ONE STEP TO HELL」 不詳 22.4×18.3cm 紙、エッチング・手彩色
- 「City 195」 1973~74(昭和48~49)年頃 50.1×65cm 紙、スクリーンプリント
- 「(City 198) BERLIN」 1973(昭和48)年頃 71.1×50cm 紙、スクリーンプリント
- 「City 358」 不詳 48.7×65.2cm 紙、スクリーンプリント
- 「City 364」 不詳 63.7×49.8cm 紙、スクリーンプリント
- 「City 420」 1990(平成2)年頃 50.5×38.7cm 紙、スクリーンプリント
- 「City 421(1)」 1990(平成2)年頃 50.2×38.1cm 紙、スクリーンプリント
- 「City 421(2)」 1990(平成2)年頃 50.1×38.3cm 紙、スクリーンプリント
- 「City 436 POST OFFICE」 不詳 39.6×43.1cm 紙、スクリーンプリント
- 「RENEWAL NYC」 2000年代 41.1×53.6cm 紙、スクリーンプリント

神奈川出身の木村利三郎(1924~2014)は、ニューヨークを拠点に国際的に活躍した版画家。“街”をモチーフに様々な版画技法を用いて作られる画面は、独創性が際立つ。特に中期以降のスクリーンプリント技法を高度に応用した作品群は、高い質感を持つ。「福井小コレクターの会」の中心メンバーが、木村の活動を応援すべく、県内で度々彼の個展を開催。このため多くの作品が、県内の小コレクターの手に渡る等、福井との関わりが深い。作家の円熟期を示す作品を中心に、作風変遷のわかる11点の作品の寄贈を受けた。



上:無題(仮題)
下:City 195



令和3年度新収蔵品紹介

令和3年度に新たに寄贈を受けた作品22点から一部を紹介。

【寄贈】

えいきゅう
瑛九「あそび」 株式会社ジャクエツ寄贈

1957(昭和32)年 キャンバス、油彩

宮崎市出身の瑛九(1911~1960)は、前衛美術の先駆者として、油彩、版画、フォトデッサン等数多くの傑作を残した。1951年に設立した「デモクラート美術家協会」では、既成の画壇を否定して鬚嘯、池田満寿夫等若い作家たちに多大な影響を与え、52年に久保貞次郎と設立した「創造美育協会」では、新しい美術教育のあり方を提唱する等多方面で活躍した。「福井小コレクターの会」の中心メンバーが、瑛九の活動を支援したことから、彼の晩年の傑作の多くが県内に残った。近年国内外で評価が高まっている作家の円熟期の作品である。



【寄贈】

かわさきかずお
川崎和男 作家寄贈

- ①「Artificial heart first model」 1998(平成10)年
 - ②「Artificial heart second model」 2004(平成16)年
 - ③「Artificial heart third model」 2007(平成19)年
- 全て紫外線硬化樹脂 ほか 計9点



川崎和男は1949年福井市生まれのデザインディレクター、医学博士。金沢美術工芸大学産業美術科卒業。株式会社東芝に入社した後フリーとなり、デザインディレクターとして伝統工芸品からメガネやコンピュータ、ロボット、原子力エネルギー、人工臓器、先端医療、宇宙空間まで幅広く、研究・教育・実務活動を行う。国内外での受賞歴多数。大阪大学大学院名誉教授、名古屋市立大学大学院名誉教授。多摩美術大学客員教授、日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞審査委員長などを歴任。

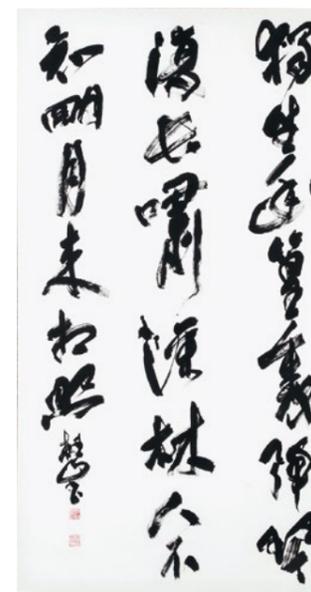
- ①②③は川崎の代表的な仕事である、人工心臓デザインのために作成された模型。
- ①いのちと向き合うデザインとして“artificial heart = 人工心臓”は、artとartにはさまれた、究極の人工物デザインを象徴したモノ。トポロジー空間論におけるクラインボトルを人工心臓の形態発想に初めて応用した、人工心臓のアドバンスデザインモデル。1998年博士論文掲載。
- ②トポロジー空間の1つである、ダンス・エッグを人工心臓の形態に応用した進化モデル。
- ③新しいポンプ機構、波動ポンプを採用。波動ポンプにより連続血流や拍動血流といった選択が可能になる。また、血流路の形態は動力からの熱を冷却するのに適している。東大医学系研究科医用生体工学講座のチームとヤギに埋め込む共同研究に成功。

【寄贈】

いまむらけいざん ちくりかん
今村桂山「竹里館」 作家寄贈

2012(平成24)年 紙、墨

今村桂山は1938年福井市生まれの書家。18歳から書道をはじめ、20歳で木村知石に師事。21歳で日展初入選、41歳で特選受賞。2008年には本県在住作家として初の日展評議員になり、現在(2022年)は特別会員。審査員は5度務めた。日本書芸院副理事長を経て現在顧問。読売書法会参事、日展福井県作家会会長、書法研究五華会会長。2000年に藍綬褒章、2008年に福井県文化賞。本作は、2012年74歳で、第44回日展・文部科学大臣賞を受賞した、作家の代表作となる1点。唐時代の詩人王維の五言絶句「竹里館」を単体書きの20字にまとめた。



「今、あなたにつたえたい ミリオンセラー・ロングセラーの絵本たち」

【会期】令和4年 9月30日(金)～11月6日(日)

親から子へ、子からその子へと世代を超えて長く愛され、受け継がれる上質な絵本はページをめくるたびに子どもたちの心を躍らせ、大人をも魅了する力をもっています。大切なものは、幸福とは何か、絵本を通して未来に伝えていきたいメッセージをひもといていきます。

本展は日本国内で販売部数100万部を超える絵本や、長く愛されるロングセラーの絵本のほか、著名な児童画家、洋画家、日本画家による絵本を原画や複製原画で紹介いたします。また、世界初の絵本美術館である、ちひろ美術館の世界各国の絵本原画やピエゾグラフのコレクションから、日本でも100万部を超える人気絵本をはじめとする、様々な国の多様な表現をご紹介します。

本県出身（越前市）の2人の優れた絵本作家、かこさとしといわさきちひろについては拡大パネルや、絵本の世界を体感できるフィギュアなどを交えた特集展示を行います。

絵本で育ち、絵本を愛する人たち、そしてこれから新たに絵本の世界に踏み入れる全ての人たちに、楽しんで頂ける内容でお届けします。



『からすのパンやさん』（かこさとし・作／絵 1973年 偕成社）より ©KAKO Satoshi



画像提供：福岡アジア美術館

『からすのパンやさん』に出てくる素敵な形のパンの模型がどっさり84種類ならび、楽しい絵本の世界が広がります。

「戸田正寿の世界」展覧会 特別メニュー

ももがしま 「桃ヶ島パフェ」

戸田正寿氏が手がける
Brilliant Heart Museum。
印象的なのは、窓に取り込んだ雄島の景色。この景色をイメージして、白桃のジュレを「海」に、カットした白桃を「雄島」に、赤い苺チョコを「雄島橋」に見立てました。
ニホ特製白桃アイス、白桃ソルベなど、桃づくしです。

美術館喫茶室 二ホ

【営業時間】9:00～19:00
【定休日】月・火曜日（祝日営業）
* 催しによっては
火曜日営業
【電話番号】0776-43-0310
*フリーWi-Fi



Facebook



Instagram

お
ら
せ
知
せ

◎2022年7月～9月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。
7月1日(金)～14日(水)、9月1日(水)～14日(水)、20日(火)、25日(日)～29日(木)

美術館のHPはこちら▶

